

NO.	項目	意見・質問・感想等	委員
1	子どもの権利について	野村先生のお話しは、少し難しく感じました。子どもと大人がパートナーシップを持ち、子どもの意見を、どのようにして取り入れていくのか。また、中、高生の居場所づくりの取組はとても良いと思います。	大門委員
2	子どもの権利について	野村先生のご講演について 子どもの権利ってなんだろう？という説明の中で、子どもをパートナーシップとして考えているかどうか？！というご説明が、とてもわかりやすかったです。夫婦のように、互いに思いやり、相手を尊重することを我が子といえども、子どもといえども接することが大切であることに深く領けました。誠にありがとうございました。	大橋委員
3	子どもの権利について	野村先生のご講義や質疑での深い議論、大変勉強になりました。子どもの意見表明と、大人が子どものために良かれと思って決めていくことが時にぶつかることがある、という場面は生活の現場でも多々あるかと思えます。そこで私たち大人が子どもの権利を保障していく責務を果たすために求められることとして、まずは「そう思っているんだね。」と子どもの意見を受け止めるということ。”決まっていくまでのプロセスが大切になってくる”というお話もあったかと思えますが、子どもの意見に対し、大人が勝手な解釈をして頭ごなしに否定してしまう、ということが自らを振り返ってもあるなと思えます。グループディスカッションでも議論がありましたが、そうした場面で、大人が自分の価値観や勝手な解釈で判断してしまうのではなく、まずは子どもがどのような思いや考えがあつてそう言っているのか、行動しようとしているのかを知ろうとすること、どんな場面においてもそのことが起点になる、ということをお大人側がインプットしておく必要があると感じました。	丸茂委員
4	子どもの権利について	先日、甲斐田万知子先生のお話を聴く機会があり、その中で、「権利と言うなら、まずは義務を果たせ」という、子どもの権利と義務をセットにして考える大人がいるがそれは間違いである、というお話がありました。「子どもに権利があるということは、大人にその責務を果たす責任があるということであり、子どもに義務を求めるものではない。」という点について、親、学校、行政等、子どもの権利が当たり前保障された環境を知らずに成長してきた私たち大人が学びたいポイントであると、第5回の内容と合わせて感じています。	丸茂委員
5	子どもの権利について	子どもの権利委員会のほうでもご議論があるかと思えますが、しんどい思いをしている子どもほど困っていることを誰にも伝えられない、という現実があります。中には、本当はしんどいのだけれど、そのことをうまく表現できない子どももいます。虐待相談件数が増加しているのに子ども本人からの相談件数は増えていない、というデータもあります。そうした子ども達が救済委員にアクセスしやすくなる環境づくりや工夫は、大人の責務であり、大変重要な課題であると思えます。今は携帯の普及で自宅に電話を置かない家庭もあることを考慮し、1人1台あるタブレットの活用や、学校内の相談室にホットラインを設置するなど、心理的にも物理的にも子どもがリーチしやすい環境づくり、または、子どもからのアプローチがなくても誰かが気づいて声かけができるような環境づくりが必要と思います。	丸茂委員
6	その他	子ども子育て会議、前半が終了しました。書面においても多くの質問に丁寧に回答くださり、また、グループディスカッションを取り入れることで各委員が発言出来る工夫など、会議に参加しやすい環境づくりにご配慮いただき大変感謝しております。子ども達の育つ環境や子育てが少しでも安心して楽しく、またより良くなりますように、引き続きよろしくお願い致します。	丸茂委員